

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ (音楽分野)

学習・ 基礎教育 目標	(α) 英語	国際的な通用性を備えた質の高い英語力の基礎が、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能において身につけている。	専門教育 学習・教育目標	(A) 学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる。 (B) 子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる。 (C) 教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。 (D) 学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。 (E) 他者を尊重し、協力して課題解決に取り組むなど、共に支え合い、高め合える人間関係を築くことができる。
	(β) 保健	生涯にわたり豊かな生活を送るため、心身の健康の重要性を、スポーツの経験を通して理解している。		
	(γ) 教養	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を形成していく基礎ができている。		

時間割コード	授業科目名	担当者氏名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記				
						学習・教育目標の項目との 0.0, 0.1, 0.2, . . . , 0.1 の数値で表す				
						(α)	(β)	(γ)	(A)	(B)
S410000	和声Ⅰ	新井 恵美	作曲の基礎となる和声について、三和音基本位置の配置と連結、第1転回位置、第2転回位置、Vの7の和音を使用した課題の実施を行う。	中学校教諭免許取得に必須の科目。教材の作・編曲を行う際の基礎を修得する。専門教育学習・教育目標のうち、「(C)教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。」と深い関連がある。	中学校教諭に必要な作・編曲能力の基礎的な知識・技能を修得する。	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0
S410005	和声Ⅱ	新井 恵美	作曲の基礎となる和声について、和声Ⅰの学習内容に加えて、Vの9の和音、Ⅱの7の和音、ドッペルドミナントの和音を使用した課題の実施を行う。	中学校教諭免許取得に必須の科目。教材の作・編曲を行う際の基礎を修得する。専門教育学習・教育目標のうち、「(C)教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。」と深い関連がある。	中学校教諭に必要な作・編曲能力の基礎的な知識・技能を修得する。	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0
S410010	和声Ⅲ	木下 大輔	和声実技(その3)	中学校・高等学校音楽1種免許状教員たるために必要な、音楽理論(エクリチュール)を学習する。修得目標に到達するために、和声の実技を修練する。専門教育学習・教育目標のうち「(C)教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。」と深い関連がある。	中学校・高等学校音楽1種免許状教員たるために足る、音楽理論(エクリチュール)の能力を修得する。	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0
S410015	作曲Ⅰ	木下 大輔	作曲実技・編曲実技(その1)	中学校・高等学校音楽2種免許状教員たるために必要な、作曲法(編曲法を含む)を学習する。修得目標に到達するために、作曲・編曲の実技を行う。専門教育学習・教育目標のうち「(C)教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。」と深い関連がある。	中学校・高等学校音楽2種免許状教員たるために足る、作曲法(編曲法を含む)を修得する。	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ (音楽分野)

学習・ 基礎教育 目標	(α) 英語	国際的な通用性を備えた質の高い英語力の基礎が、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能において身につけている。	専門教育 学習・教育目標	(A) 学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる。 (B) 子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる。 (C) 教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。 (D) 学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。 (E) 他者を尊重し、協力して課題解決に取り組むなど、共に支え合い、高め合える人間関係を築くことができる。
	(β) 保健	生涯にわたり豊かな生活を送るため、心身の健康の重要性を、スポーツの経験を通して理解している。		
	(γ) 教養	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を形成していく基礎ができてい		

時間割コード	授業科目名	担当者氏名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記				
						学習・教育目標の項目との 0.0, 0.1, 0.2, …, 0.1 の数値で表す				
						(α)	(β)	(γ)	(A)	(B)
S410020	作曲Ⅱ	木下 大輔	作曲実技・編曲実技(その2)	中学校・高等学校音楽1種免許状教員たるために必要な、作曲法(編曲法を含む)を学習する。修得目標に到達するために、作曲・編曲の実技を行う。専門教育学習・教育目標のうち「(C)教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。」と深い関連がある。	中学校・高等学校音楽1種免許状教員たるために足る、作曲法(編曲法を含む)を修得する。	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0
S405010 S410025	音楽史A	木下 大輔	音楽通史(西洋音楽史を中心に)	中学校・高等学校音楽教員たるために必要な、音楽史(西洋音楽史を中心に)を学習する。修得目標に到達するために、音楽通史を講義・演習する。専門教育学習・教育目標のうち「(C)教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。」と深い関連がある。	中学校・高等学校音楽教員たるために足る、音楽史(西洋音楽史を中心に)の能力を修得する。	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0
S401010 S410030	音楽史B	非常勤講師	音楽通史(音楽民族学を含む)	中学校・高等学校音楽教員たるために必要な、音楽史(日本の伝統音楽および諸民族の音楽を含む)を学習する。修得目標に到達するために、音楽通史(音楽民族学を含む)を講義・演習する。専門教育学習・教育目標のうち「(C)教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。」と深い関連がある。	中学校・高等学校音楽教員たるために足る、音楽史(日本の伝統音楽および諸民族の音楽を含む)の能力を修得する。	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0
S410035	音楽分析	木下 大輔	楽曲分析実践	中学校・高等学校音楽教員たるために必要な、音楽分析を学習する。修得目標に到達するために、楽曲分析を実践する。専門教育学習・教育目標のうち「(C)教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。」と深い関連がある。	中学校・高等学校音楽教員たるために足る、音楽分析の能力を修得する。	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ (音楽分野)

学習・基礎教育 目標	(α) 英語	国際的な通用性を備えた質の高い英語力の基礎が、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能において身につけている。	専門教育 学習・教育目標	(A) 学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる。 (B) 子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる。 (C) 教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。 (D) 学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。 (E) 他者を尊重し、協力して課題解決に取り組むなど、共に支え合い、高め合える人間関係を築くことができる。
	(β) ボ健	生涯にわたり豊かな生活を送るため、心身の健康の重要性を、スポーツの経験を通して理解している。		
	(γ) 教養	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を形成していく基礎ができてい		

時間割コード	授業科目名	担当者氏名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記				
						学習・教育目標の項目との 0.0, 0.1, 0.2, . . . , 0.1 の数値で表す				
						(α)	(β)	(γ)	(A)	(B)
	作曲応用演習	木下 大輔	作曲実技・編曲実技の応用	さまざまな現場において有用な作曲法（編曲法を含む）の応用・活用について学習する。修得目標に到達するために、作曲・編曲の実技を応用した活動を行う。専門教育学習・教育目標のうち「(C) 教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。」と深い関連がある。	さまざまな現場において有用な作曲法（編曲法を含む）の応用・活用法を修得する。	0.0	0.0	0.0	0.2	0.1
S400005 S410040	ソルフェージュ	高島 章悟	初見視唱、初見ピアノ演奏、リズム、聴音、鍵盤和声、スコアリーダー等の課題を随時実践する。	学部専門教育科目の教育展開科目群・中学校教科「音楽」の教科科目の一つ。音楽指導に必須となる教員の音楽基礎能力を修得する。幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性の基礎を身に付けるための科目である。	<ul style="list-style-type: none"> 初めて見た楽譜を準備なしで歌うことができる。（初見視唱） 初めて見た楽譜を準備なしでピアノで演奏することができる。（初見視奏） 楽譜に書かれたリズムを正確に再現できる。 演奏された音を聴き取り楽譜に記すことができる。 ピアノを使って和声の課題を実施することができる。 	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1
S403000 S410045	指揮法	高島 章悟	この授業では、指揮法の基本と、音楽作りの関係を実践的に学び、合唱、合奏グループを指導する際に必要な技術習得を内容としている。	この科目は中学校教科「音楽」に係る科目で、音楽の教員として学ぶべき必須のものとして免許法で指定されている必修科目である。幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性の基礎を身に付けるための科目である。	音楽科教育の現場において、音楽科教員が、合唱・吹奏楽・オーケストラを直接指導することは、日常的に当たり前になっている。指揮は、腕・指揮棒を振る（だけ）という、一見単純・簡単な行為に見えるが、そのメカニズムは意外と複雑である。指揮者として音楽を作り上げるという実践の中では、演奏者と呼吸を合わせることや、人間的にコミュニケーションをとることと同等に、指揮のテクニックが必要になる。	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ (音楽分野)

学習・教育目標 基礎教育	(α) 英語	国際的な通用性を備えた質の高い英語力の基礎が、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能において身につけている。	専門教育 学習・教育目標	(A) 学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる。 (B) 子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる。 (C) 教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。 (D) 学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。 (E) 他者を尊重し、協力して課題解決に取り組むなど、共に支え合い、高め合える人間関係を築くことができる。
	(β) ボー健	生涯にわたり豊かな生活を送るため、心身の健康の重要性を、スポーツの経験を通して理解している。		
	(γ) 教養	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を形成していく基礎ができている。		

時間割コード	授業科目名	担当者氏名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記				
						学習・教育目標の項目との 0.0, 0.1, 0.2, . . . , 0.1 の数値で表す				
						(α)	(β)	(γ)	(A)	(B)
S410050	声楽A	小原 伸一	声楽に必要な演奏基礎技能を習得するため、グループレッスンを中心とした実技指導を行う。レッスンでは、各自が自分の声の特徴を把握し、改善すべき課題を認識することをふまえて、声楽の技能を構成する姿勢・呼吸・発音・共鳴などを含めた発声全体について理解を深めながら、具体的な楽曲を通して基礎技能の能力を高める。基礎技能の一つとして、各母音の自然な発声に重点を置いて響きのある安定した発声方法の獲得を目指す。日本の伝統的な発声、合唱を含みます。	学部専門教育科目の教育展開科目群・中学校教科「音楽」の教科科目の一つ。歌唱指導をはじめ音楽科教員に必要とされる重要な資質・能力の基礎を習得するための音楽実技科目。「(A) 学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる。」及び「(D) 学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。」と深い関連がある。	・美しい声、理想的な発声に対するイメージをつかむ事ができる。 ・自己の声楽発声の状況(特徴)を認識することができ、より良い発声とするための課題を明確にすることができる。 ・発声上の課題に継続して取り組み、長期的な視点から自己の発声技術の向上を目指して取り組むことができる ・練習の成果を、具体的な楽曲の中で生かして演奏することができる。 ・音楽科の歌唱指導をふまえて、声楽の能力を修得し高める意義を理解している。	0.0	0.0	0.0	0.5	0.1
S409015 S410055	声楽B	小原 伸一	声楽Iの学習内容を継続・発展して行う。声楽Iと同様に、演奏基礎技能を習得するため、グループレッスンを中心とした実技指導を行う。レッスンでは、各自が自分の声の特徴を把握し、改善すべき課題を認識することをふまえて、声楽の技能を構成する姿勢・呼吸・発音・共鳴などを含めた発声全体について理解を深めながら、具体的な楽曲を通して基礎技能の能力をさらに高める。また、声楽演奏に関する基本について実技指導を行う。	学部専門教育科目の教育展開科目群・中学校教科「音楽」の教科科目の一つ。歌唱指導をはじめ音楽科教員に必要とされる重要な資質・能力の基礎を習得するための音楽実技科目。「(A) 学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる。」及び「(D) 学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。」と深い関連がある。	・美しい声、理想的な発声に対するイメージをつかむ事ができる。 ・自己の声楽発声の状況(特徴)を認識することができ、より良い発声とするための課題を明確にすることができる。 ・発声上の課題に継続して取り組み、長期的な視点から自己の発声技術の向上を目指して取り組むことができる ・練習の成果を、具体的な楽曲の中で生かして演奏することができる。 ・音楽科の歌唱指導をふまえて、声楽の能力を修得し高める意義を理解している。	0.0	0.0	0.0	0.5	0.1
	器楽B	高島 章悟他	中学校の教員に必要なリコーダー、ギター、篠笛の技能の習得を目指し、実技を中心に授業を進める。	中学校・高等学校の「音楽」免許を取得するための必修科目で、音楽教育専攻の1分野である(器楽)の科目として意義をもつ。幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性の基礎を身に付けるための科目である。	中学校音楽科の教員としての実践的能力や教材研究の基礎能力を身に付けるため、器楽実技の実践を通して演奏を学んでいく。ここで学ぶ基礎は将来の教員としての指導の土台となるものである。音楽を表現する上で、また音楽を指導する上での基礎的な事柄をリコーダー、ギター、篠笛を通して身に付ける。	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1
新規	器楽B	平井 李枝	中学校の教員に必要なピアノの技能の習得を目指し、実技を中心に授業を進める。また和楽器に関する授業も行い、基本的な演奏法などの習得を目指す。	中学校・高等学校の「音楽」免許を取得するための必修科目で、音楽教育専攻の1分野である(器楽)の科目として意義をもつ。専門教育学習・教育目標のうち「(A) 学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる。」、「(B) 子ども理	中学校音楽科の教員としての実践的能力や教材研究の基礎能力を身に付けるため、器楽実技の実践を通して演奏を学んでいく。ここで学ぶ基礎は将来の教員としての指導の土台となるものである。音楽を表現する上で、また音楽を指導する上での基礎的な事柄をピアノを通して身に付ける。	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ (音楽分野)

学習・教育目標 基盤教育	(α) 英語	国際的な通用性を備えた質の高い英語力の基礎が、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能において身につけている。	専門教育 学習・教育目標	(A) 学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる。 (B) 子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる。 (C) 教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。 (D) 学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。 (E) 他者を尊重し、協力して課題解決に取り組むなど、共に支え合い、高め合える人間関係を築くことができる。
	(β) ボ健	生涯にわたり豊かな生活を送るため、心身の健康の重要性を、スポーツの経験を通して理解している。		
	(γ) 教養	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を形成していく基礎ができてい		

時間割コード	授業科目名	担当者氏名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記				
						学習・教育目標の項目との 0.0, 0.1, 0.2, . . . , 0.1 の数値で表す				
						(α)	(β)	(γ)	(A)	(B)
S410090	合奏 I	高島 章悟	合奏の基礎を実技を通して学ぶ。	中学校教諭1種免許状(音楽)、高等学校教諭1種免許状(音楽)取得に必要な科目。幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性の基礎を身に付けるための科目である。	合奏における基本的な事柄を、様々な形態のアンサンブルを通じて学ぶ。	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0
S410095	合奏 II	高島 章悟	合奏 I を踏まえた上で、より実践的な合奏を体得する。	中学校教諭1種免許状(音楽)、高等学校教諭1種免許状(音楽)取得に必要な科目。幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性の基礎を身に付けるための科目である。	合奏における基本的な事柄を、様々な形態のアンサンブルを通じて学ぶ。	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0
S412114	中等音楽科教育法	新井 恵美	中等音楽科の教科目標や内容、学習指導計画等について講義を行う。また、実地指導講師による音楽指導の実践例を通して、中学校における具体的な教材やその指導方法について学ぶ。さらに、上記の学習を基盤として学習指導案を作成し、中等音楽科教育法 II における模擬授業実施に向けた準備を進める。	中学校教科「音楽」に係る科目の中の「教科教育法」開設科目。学習指導要領を基に、中等音楽科の概要を理解し、音楽授業を立案する能力を修得する。専門教育学習・教育目標のうち、「(A) 学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる。」、「(B) 子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる。」、「(C) 教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。」、「(D) 学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。」、「(E) 他者を尊重し、協力して課題解決に取り組むなど、共に支え合い、高め合える人間関係を築くことができる。」と深い関連がある。	・中等音楽科の教科内容等について、学習指導要領を基に全体の概要を理解している。 ・学習指導計画(学習指導案)を作成するために必要な基本事項を理解している。 ・教科目標や指導内容、評価等をふまえて音楽授業を立案し、学習指導案を作成することができる。	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ (音楽分野)

学習・教育目標 基盤教育	(α) 英語	国際的な通用性を備えた質の高い英語力の基礎が、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能において身につけている。	専門教育 学習・教育目標	(A) 学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる。 (B) 子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる。 (C) 教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。 (D) 学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。 (E) 他者を尊重し、協力して課題解決に取り組むなど、共に支え合い、高め合える人間関係を築くことができる。
	(β) ポン	生涯にわたり豊かな生活を送るため、心身の健康の重要性を、スポーツの経験を通して理解している。		
	(γ) 教養	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を形成していく基礎ができている。		

時間割コード	授業科目名	担当者氏名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記				
						学習・教育目標の項目との 0.0, 0.1, 0.2, . . . , 0.1 の数値で表す				
						(α)	(β)	(γ)	(A)	(B)
S412122	中等音楽科教育法I	小原 伸一	中等音楽科教育法Iで学んだ教科理解を基盤として、音楽指導の実践に必要な知識や技能を習得する。 模擬授業では必ず模擬授業を1回担当する。模擬授業の学習指導案作成及びその推敲を含めた準備作業は個別に事前指導によって行う。模擬授業担当を通して、音楽授業の計画から実施・検証までの流れを体験する。 授業の計画から実施・検証を通して音楽指導に関わる様々な課題に取り組み、創意工夫によってより良い授業を実践する方法について考える。教育実習もふまえて、実地講師による実践指導が含まれている。	中学校教科「音楽」に係る科目の中の「教科教育法」開設科目。 中等音楽科教育法Iで学んだことを基盤に教育実習での授業実践も視野に入れながら、模擬授業の担当を通して中等音楽科の実践に関わる様々な知識・技能を理解し身につける科目。 (A) から (E) の全項目に深く関連している。五項目の「学習・教育目標」を達成するための基礎的な教科理解の出発点となる。	・学習指導案の作成手順に従い、音楽授業の学習計画を立案することができる。 ・自分で計画した学習指導案を実行するために必要な教材研究等の準備を行うことができる。 ・自分が作成した学習指導計画に基づいて音楽の模擬授業を実施することができる。 ・模擬授業を振り返り、より良い授業を実現するための工夫を提案することができる。	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2
S413005	中等音楽科教育法III	新井 恵美	中学校音楽科の教員として必要な、コードネームによる弾きうたい、鑑賞教材研究、音楽科教育研究の動向について演習を行う。	中学校教諭1 週免許（音楽）取得に必須の科目。中学校の音楽科教員として必要な、その場に応じた伴奏形の使用、鑑賞教材の開発などの知識・技能を修得する。また、音楽科教育の研究動向を探ることで、社会の変化に対応した実践の方法を修得できるようにする。 専門教育学習・教育目標のうち、「(A) 学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる。」、「(B) 子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる。」、「(C) 教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。」、「(D) 学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。」、「(E) 他者を尊重し、協力して課題解決に取り組むなど、共に支え合い、高め合える人間関係を築くことができる。」と深い関連がある。	中学校の音楽科教員として必要な資質を修得することと、今日の音楽科教育の持つ課題について知り、追求できるようにする。	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ (音楽分野)

学習・教育目標 基礎教育	(α) 英語	国際的な通用性を備えた質の高い英語力の基礎が、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能において身につけている。	専門教育 学習・教育目標	(A) 学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる。 (B) 子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる。 (C) 教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。 (D) 学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。 (E) 他者を尊重し、協力して課題解決に取り組むなど、共に支え合い、高め合える人間関係を築くことができる。
	(β) ボ健	生涯にわたり豊かな生活を送るため、心身の健康の重要性を、スポーツの経験を通して理解している。		
	(γ) 教養	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を形成していく基礎ができている。		

時間割コード	授業科目名	担当者氏名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記				
						学習・教育目標の項目との 0.0, 0.1, 0.2, . . . , 0.1 の数値で表す				
						(α)	(β)	(γ)	(A)	(B)
S414001	中等音楽科教育法	小原 伸一	中等音楽科の教員に必要な様々な資質や能力について理解し、その自己評価をふまえさらに伸ばしたい資質や能力(実践力)を明らかにする。また、教材研究や新たな教材の開発、授業の構成力などを高めるために、各自の専門能力を音楽授業で有効に活用する柔らかな発想力・思考力を育成する(理論的思考力)。その上で、獲得した資質や能力を音楽指導の実践に転換する方法論を探究する(理論と実践の融合)。	中学校教科「音楽」に係る科目の中の「教科教育法」開設科目。 音楽担当教員の資質・能力に対する理解を深め、客観的な自己評価から更に伸ばしたい自分の資質・能力を見極め、教職を目指してそれらを高めようとする自己教育力を育成する。(A)から(E)の全項目にわたり深く関連している。五項目の「学習・教育目標」を達成するための道筋を発見することに重点が置かれている。	・音楽の教員に必要な資質・能力について理解し、それらを説明することができる。 ・音楽教育の実践を行うための理論的背景を考える力を身につけ、両者を関係づける力を獲得する。 ・上記の二点をふまえ、具体的な実践例を考案し提示することができる。	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2
S415031	音楽アウトリーチ研究A	新井 恵美、木下 大輔	社会への音楽普及プロジェクト(音楽によるアウトリーチ)の企画と実施を行う。	音楽教育専攻の専攻専門科目の1つ。学校や施設へのアウトリーチ活動により、必要な企画力、実践力を修得し、地域貢献を図る。	社会への音楽普及プロジェクト(音楽によるアウトリーチ)の企画と実施を行うことにより、音楽と教育による地域貢献を図ることができるようにする。	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2
S415032	音楽アウトリーチ研究B	新井 恵美、木下 大輔	社会への音楽普及プロジェクト(音楽によるアウトリーチ)の企画と実施を行う。	音楽教育専攻の専攻専門科目の1つ。学校や施設へのアウトリーチ活動により、必要な企画力、実践力を修得し、地域貢献を図る。	社会への音楽普及プロジェクト(音楽によるアウトリーチ)の企画と実施を行うことにより、音楽と教育による地域貢献を図ることができるようにする。	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2
	合奏Ⅲ	高島 章悟	合奏Ⅰ、Ⅱを踏まえた上で、より実践的な合奏を体得する。	音楽教育専攻専門科目で、合奏の基礎的技能を習得する。幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性の基礎を身に付けるための科目である。	合奏における演奏法を、楽曲研究を通じて学ぶ。	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1
	室内楽	高島 章悟	様々な楽器を集合させ、楽譜上の役割を理解し、音色の調和を図り、体得する。	音楽教育専攻専門科目で、アンサンブルを通じて人と連携を理解する。幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性の基礎を身に付けるための科目である。	・器楽演奏技術の習得・アンサンブル技術の向上 ・レパトリの拡充	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ (音楽分野)

学習・教育目標 基礎教育	(α) 英語	国際的な通用性を備えた質の高い英語力の基礎が、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能において身につけている。	専門教育 学習・教育目標	(A) 学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる。 (B) 子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる。 (C) 教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。 (D) 学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。 (E) 他者を尊重し、協力して課題解決に取り組むなど、共に支え合い、高め合える人間関係を築くことができる。
	(β) ポ健	生涯にわたり豊かな生活を送るため、心身の健康の重要性を、スポーツの経験を通して理解している。		
	(γ) 教養	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を形成していく基礎ができている。		

時間割コード	授業科目名	担当者氏名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記				
						学習・教育目標の項目との 0.0, 0.1, 0.2, . . . , 0.1 の数値で表す				
						(α)	(β)	(γ)	(A)	(B)
新規	音楽科教育演習	新井 恵美	音楽科教育に関連するテーマ、事項、問題意識等を受講生がそれぞれ設定し、受講者全員で討議・実践することにより、解決の方策を探る。	音楽分野の分野専門科目の1つ。音楽科教育に関連するテーマを受講生がそれぞれ設定し、受講者全員で討議・実践することにより、解決の方策を探る。専門教育学習・教育目標のうち、「(A) 学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる。」、「(B) 子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる。」、「(C) 教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。」、「(D) 学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。」、「(E) 他者を尊重し、協力して課題解決に取り組むなど、共に支え合い、高め合える人間関係を築くことができる。」と深い関連がある。	音楽科教育についてより深く理解し、実践に生かす方策を追求する。	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2
新規	声楽アンサンブル演習	小原 伸一	声楽の基礎技能を伸ばすとともに、二重唱から小編成のグループアンサンブルまで、多様な声楽アンサンブルの演奏形態を対象とした演奏能力を修得する。レッスンを中心に行い、学修の成果を演奏を通して発表する。	音楽教育専攻専門科目の選択科目。教育学習・目標の「(A) 学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる。」、「(B) 子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる。」、「(C) 教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。」、「(D) 学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。」、及び「(E) 他者を尊重し、協力して課題解決に取り組むなど、共に支え合い、高め合える人間関係を築くことができる。」と深い関連がある。	・声楽アンサンブルの技能に関する基礎を理解している。 ・声楽アンサンブルの難しさや表現の豊かさ気づき、表現能力を高めるとともにアンサンブル指導に生かすことができる。 ・自己の声楽表現技能を用いて、複数の声楽演奏者と作品に適した音楽表現により演奏することができる。	0.0	0.0	0.0	0.2	0.1

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ (音楽分野)

学習・教育目標 基礎教育	(α) 英語	国際的な通用性を備えた質の高い英語力の基礎が、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能において身につけている。	専門教育 学習・教育目標	(A) 学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる。 (B) 子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる。 (C) 教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。 (D) 学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。 (E) 他者を尊重し、協力して課題解決に取り組むなど、共に支え合い、高め合える人間関係を築くことができる。
	(β) ボー健康	生涯にわたり豊かな生活を送るため、心身の健康の重要性を、スポーツの経験を通して理解している。		
	(γ) 教養	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を形成していく基礎ができている。		

時間割コード	授業科目名	担当者氏名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記				
						学習・教育目標の項目との 0.0, 0.1, 0.2, . . . , 0.1 の数値で表す				
						(α)	(β)	(γ)	(A)	(B)
新規	鍵盤アンサンブル演習	平井 李枝	ピアノをはじめとする鍵盤楽器のアンサンブル曲の演奏法を学ぶ。	音楽教育専攻専門科目の選択科目である。専門教育学習・教育目標のうち「(A) 学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる。」「(B) 子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる。」「(C) 教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。」「(D) 学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。」、及び「(E) 他者を尊重し、協力して課題解決に取り組むなど、共に支え合い、高め合える人間関係を築くことができる。」と深い関連がある。	ピアノ連弾、2台ピアノ、チェンバロを用いたアンサンブルなど、鍵盤楽器を主体とするアンサンブル曲を選択し、演奏解釈は演奏法などを実践的に学ぶ。また学校教育現場で役立つ鍵盤楽器アンサンブルの可能性などについても実践を通して研究する。	0.0	0.0	0.0	0.2	0.1
S440000	音楽研究セミナーⅠ	小原 伸一	音楽科教育、声楽の専門領域に関する研究を対象とする。音楽科教育では、研究内容と方法について理解し、多様な事柄の中から研究テーマを設定して研究成果としてまとめ、内容に合った工夫を考えて発表を行う。声楽では、発声の基礎から歌唱表現まで、声楽の演奏技能を高める。	音楽科教育専攻専門科目の開講科目。音楽と教育を結ぶ様々な視点から、教科の専門をふまえ、音楽教育のあらゆる課題を対象にして理論的に思考する力を修得する。どの領域においても、「(B) 子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる。」「及び「(D) 学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。」と深い関連がある。	音楽科教育領域 ・音楽教育研究の内容と方法について理解している。 ・研究テーマを設定し、適切な研究方法を考え、研究計画を立案し、目的に適った研究の成果を追求することができる。 ・研究過程やその成果について、資料及び提示方法等を工夫して発表することができる。 声楽領域 ・声楽発声の基礎技能を身につけている。 ・声を生かした歌唱表現を工夫し、演奏を通して発表することができる。	0.0	0.0	0.0	0.2	0.3

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ (音楽分野)

学習・教育目標 基礎教育	(α) 英語	国際的な通用性を備えた質の高い英語力の基礎が、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能において身につけている。	専門教育 学習・教育目標	(A) 学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる。 (B) 子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる。 (C) 教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。 (D) 学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。 (E) 他者を尊重し、協力して課題解決に取り組むなど、共に支え合い、高め合える人間関係を築くことができる。
	(β) スポーツ	生涯にわたり豊かな生活を送るため、心身の健康の重要性を、スポーツの経験を通して理解している。		
	(γ) 教養	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を形成していく基礎ができている。		

時間割コード	授業科目名	担当者氏名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記				
						学習・教育目標の項目との 0.0, 0.1, 0.2, …, 0.1 の数値で表す				
						(α)	(β)	(γ)	(A)	(B)
S440000	音楽研究セミナーⅠ	新井 恵美	受講者それぞれが設定したテーマに沿って研究を行う。	音楽分野の分野専門科目の1つ。受講者それぞれが設定したテーマについて問題意識を持ち、研究を行う。専門教育学習・教育目標のうち、「(A) 学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる。」、「(B) 子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる。」、「(C) 教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。」、「(D) 学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。」、「(E) 他者を尊重し、協力して課題解決に取り組むなど、共に支え合い、高め合える人間関係を築くことができる。」と深い関連がある。	受講者それぞれが設定したテーマについて問題意識を持ち、研究を行うことができるようにする。	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2
S440005	音楽研究セミナーⅡ	小原伸一	音楽科教育、声楽の専門領域に関する研究を対象とする。音楽科教育では、研究内容与方法について理解し、多様な事柄の中から研究テーマを設定して研究成果としてまとめ、内容に合った工夫を考えて発表を行う。声楽では、発声の基礎から歌唱表現まで、声楽の演奏技能を高める。	音楽教育専攻専門科目の開講科目。音楽と教育を結ぶ様々な視点から、教科の専門をふまえ、音楽教育のあらゆる課題を対象にして理論的に思考する力を修得する。どの領域においても、「(B) 子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる。」及び「(D) 学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。」と深い関連がある。	音楽科教育領域 ・音楽教育研究の内容と方法について理解している。 ・研究テーマを設定し、適切な研究方法を考え、研究計画を立案し、目的に適った研究成果を追求することができる。 ・研究過程やその成果について、資料及び提示方法等を工夫して発表することができる。 声楽領域 ・声楽発声の基礎技能を身につけている。 ・声を生かした歌唱表現を工夫し、演奏を通して発表することができる。	0.0	0.0	0.0	0.2	0.3

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ (音楽分野)

学習・教育目標 基礎教育	(α) 英語	国際的な通用性を備えた質の高い英語力の基礎が、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能において身につけている。	専門教育 学習・教育目標	(A) 学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる。 (B) 子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる。 (C) 教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。 (D) 学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。 (E) 他者を尊重し、協力して課題解決に取り組むなど、共に支え合い、高め合える人間関係を築くことができる。
	(β) ボ健	生涯にわたり豊かな生活を送るため、心身の健康の重要性を、スポーツの経験を通して理解している。		
	(γ) 教養	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を形成していく基礎ができている。		

時間割コード	授業科目名	担当者氏名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記				
						学習・教育目標の項目との 0.0, 0.1, 0.2, . . . , 0.1 の数値で表す				
						(α)	(β)	(γ)	(A)	(B)
S440005	音楽研究セミナーⅡ	新井 恵美	受講者それぞれが設定したテーマに沿って研究を行う。	音楽分野の分野専門科目の1つ。受講者それぞれが設定したテーマについて問題意識を持ち、研究を行う。専門教育学習・教育目標のうち、「(A) 学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる。」、「(B) 子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる。」、「(C) 教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。」、「(D) 学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。」、「(E) 他者を尊重し、協力して課題解決に取り組むなど、共に支え合い、高め合える人間関係を築くことができる。」と深い関連がある。	受講者それぞれが設定したテーマについて問題意識を持ち、研究を行うことができるようにする。	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2
S440010	音楽研究セミナーⅠ	木下 大輔	卒業作品・卒業論文に向けた研究指導(その1)	卒業研究に向けての授業(3年次前期)。実技・知識・方法論を集大成させたオリジナルな研究(作品・論文)のための、3年次前期段階での指導を行う。修得目標に到達するために、実技と学問を修練する。専門教育学習・教育目標のうち「(C) 教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。」と深い関連がある。	実技・知識・方法論を集大成させたオリジナルな研究(作品・論文)を次年度(4年次)に成就させるために足る、3年次前期段階での能力を修得する。	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ (音楽分野)

学習・ 基礎教育 目標	(α) 英語	国際的な通用性を備えた質の高い英語力の基礎が、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能において身につけている。	専門教育 学習・教育目標	(A) 学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる。 (B) 子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる。 (C) 教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。 (D) 学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。 (E) 他者を尊重し、協力して課題解決に取り組むなど、共に支え合い、高め合える人間関係を築くことができる。
	(β) 保健	生涯にわたり豊かな生活を送るため、心身の健康の重要性を、スポーツの経験を通して理解している。		
	(γ) 教養	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を形成していく基礎ができてい		

時間割コード	授業科目名	担当者氏名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記				
						学習・教育目標の項目との 0.0, 0.1, 0.2, …, 0.1 の数値で表す				
						(α)	(β)	(γ)	(A)	(B)
S440015	音楽研究セミナーⅡ	木下 大輔	卒業作品・卒業論文に向けた研究指導(その2)	卒業研究に向けての授業(3年次後期)。実技・知識・方法論を集大成させたオリジナルな研究(作品・論文)のための、3年次前期段階での指導を行う。修得目標に到達するために、実技と学問を修練する。専門教育学習・教育目標のうち「(C)教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。」と深い関連がある。	実技・知識・方法論を集大成させたオリジナルな研究(作品・論文)を次年度(4年次)に成就させるために足る、3年次後期段階での能力を修得する。	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0
	音楽研究セミナー	高島 章悟	音楽を表現する上で必要な解釈や、演奏法を学ぶ。	音楽教育専攻専門科目の選択科目である。管・弦・打楽器の演奏技能を実践的に学び、表現能力を高める。幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性の基礎を身に付けるための科目である。	管・弦・打楽器の実技実践を通して、管・弦・打楽器、演奏、解釈の基本的な事柄を学ぶ。さらに、幅広い視野にたった表現を学ぶ。	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0
新規	音楽研究セミナー	平井 李枝	ピアノ演奏に関する基礎的なテクニックを習得しながら、バロック、古典派等のピアノ作品の演奏研究を行う。また学校教育現場やピアノ指導者として必要な知識や技術を学ぶ。	音楽教育専攻専門科目の選択科目である。ピアノの演奏技術や音楽表現を演奏実践を通して多角的に学び、音楽的な教育実践力を高める。専門教育学習・教育目標のうち「(A)学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる。」と深い関連がある。	ピアノの演奏実践研究を通して、演奏解釈や演奏技術を習得しながら、応用力を高め、演奏者としての資質を向上させる。	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2
	音楽研究セミナーⅡ	高島 章悟	セミナーⅠを踏まえた上で、さらに音楽を表現する上で必要な解釈や、演奏法を学ぶ。	音楽教育専攻専門科目の選択科目である。管・弦・打楽器、ピアノ演奏技能を実践的に学び、表現能力を高める。幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性の基礎を身に付けるための科目である。	管・弦・打楽器の実技実践を通して、管・弦・打楽器の演奏、解釈の基本的な事柄を学ぶ。さらに、幅広い視野にたった表現を学ぶ。	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0
S440027	音楽研究セミナーⅡ	平井 李枝	音楽研究セミナーⅠに引き続き、ピアノ演奏に関する基礎的なテクニックを習得しながら、ロマン派や近現代等のピアノ作品の演奏研究を行う。また学校教育現場やピアノ指導者として必要な知識や技術を学ぶ。	音楽教育専攻専門科目の選択科目である。ピアノの演奏技術や音楽表現を演奏実践を通して多角的に学び、音楽的な教育実践力を高める。専門教育学習・教育目標のうち「(A)学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる。」と深い関連がある。	ピアノの演奏実践研究を通して、演奏解釈や演奏技術を習得しながら、応用力を高め、演奏者としての資質を向上させる。	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ (音楽分野)

学習・教育目標 基礎教育	(α) 英語	国際的な通用性を備えた質の高い英語力の基礎が、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能において身につけている。	専門教育 学習・教育目標	(A) 学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる。 (B) 子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる。 (C) 教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。 (D) 学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。 (E) 他者を尊重し、協力して課題解決に取り組むなど、共に支え合い、高め合える人間関係を築くことができる。
	(β) ポ健	生涯にわたり豊かな生活を送るため、心身の健康の重要性を、スポーツの経験を通して理解している。		
	(γ) 教養	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を形成していく基礎ができている。		

時間割コード	授業科目名	担当者氏名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記				
						学習・教育目標の項目との 0.0, 0.1, 0.2, . . . , 0.1 の数値で表す				
						(α)	(β)	(γ)	(A)	(B)
	卒業研究	新井 恵美	受講者それぞれが設定したテーマに沿って研究を行う。	音楽分野の分野専門科目の1つ。受講者それぞれが設定したテーマについて問題意識を持ち、研究を行う。専門教育学習・教育目標のうち、「(A) 学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる。」、「(B) 子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる。」、「(C) 教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。」、「(D) 学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。」、「(E) 他者を尊重し、協力して課題解決に取り組むなど、共に支え合い、高め合える人間関係を築くことができる。」と深い関連がある。	受講者それぞれが設定したテーマについて問題意識を持ち、研究を行うことができるようにする。	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2
	卒業研究	石野 健二	声楽の演奏技術、表現技術は結局はホール等の空間で音楽として成立するかといった事が重要である。卒業演奏に向けた実践的なトレーニングを行う。	この科目は音楽教育専攻専門で専攻専門科目であり、卒業するために必須のものである。この授業では個人の適性に応じた高度で実践的な技能、ホール等の空間で以下に音楽を伝達するかを学び音楽活動の本質を理解する。このことは児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践を可能にする。	十分に訓練された声という楽器により、演奏内容が様々な点において的確に表現され、音楽ホールという空間で歌唱が成立することが目標である。	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
	卒業研究	木下 大輔	卒業作品・卒業論文作成指導	卒業研究作成(4年次)。修得目標に到達するための研究指導を行う。専門教育学習・教育目標のうち「(C) 教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。」と深い関連がある。	実技・知識・方法論を集大成させたオリジナルな研究(作品・論文)を次年度(4年次)に成就させる。	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ (音楽分野)

学習・教育目標 基礎教育	(α) 英語	国際的な通用性を備えた質の高い英語力の基礎が、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能において身につけている。	専門教育 学習・教育目標	(A) 学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる。 (B) 子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる。 (C) 教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。 (D) 学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。 (E) 他者を尊重し、協力して課題解決に取り組むなど、共に支え合い、高め合える人間関係を築くことができる。
	(β) ボ健	生涯にわたり豊かな生活を送るため、心身の健康の重要性を、スポーツの経験を通して理解している。		
	(γ) 教養	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を形成していく基礎ができている。		

時間割コード	授業科目名	担当者氏名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記				
						学習・教育目標の項目との 0.0, 0.1, 0.2, …, 0.1 の数値で表す				
						(α)	(β)	(γ)	(A)	(B)
	卒業研究	小原 伸一	音楽科教育に関する卒業論文の作成、声楽に関する演奏研究を行う。 音楽科教育では、音楽科教育の様々な問題に関心を持ち、問題解決のための方法論を考え、先行研究の批判的検討を通して自己の理論展開を構築し、論文の形で研究の成果をまとめる。 声楽では、歌唱の基礎技能を高めるとともに、声楽による表現について研究し、その成果を演奏の形で発表する。	音楽教育専攻専門科目の開講科目。(A)から(E)の全項目にわたり深く関連している。中でも、「(B) 子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる。」及び「(D) 学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。」と深く関連し、研究を通して目標を達成する能力を修得する。	音楽科教育領域 ・音楽教育研究の内容と方法について理解している。 ・研究テーマを設定し、適切な研究方法を考え、研究計画を立案し、目的に適った研究の成果を追求することができる。 ・研究過程やその成果について、資料及び提示方法等を工夫して発表することができる。 声楽領域 ・声楽発声の基礎技能を身につけている。 ・声を生かした歌唱表現を工夫し、演奏を通して発表することができる。	0.0	0.0	0.0	0.2	0.3
	卒業研究	高島 章悟	管・弦・打楽器の演奏法を研究する。	音楽教育専攻専門科目の選択科目である。幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性の基礎を身に付けるための科目である。	今までの蓄積をふまえ、卒業研究発表に向けて曲目を選択し、演奏会での演奏に耐えうるような実技実践を積んでいく。これは、皆さんの音楽に対する自身を深めることとなる。各人が自由に選択した曲目を、人前で演奏することを念頭に練習を積み重ねていく。	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1